

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針  
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	36 経済学専攻	責任者	濱本 知寿香
基準5	学生の受け入れ	自己評価	A
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 入学者数は改善していないが、DBポータルを活用や研究生への手厚い指導などを通じ、定員確保の努力を継続的に行っている。また、在学生から入試等に関する意見を提出いただき、研究科委員会で議論するとともに、入試方法等検討委員会を立ち上げ、入学者数確保に向けた努力を行っている。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針> (記入してください。) 【博士課程前期課程】 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー) 経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. (知識・理解・技能) 大学院レベルの経済学を学ぶのに十分な基礎的な経済学の知識と、未開拓の領域や新しい状況に的確に対応していく基礎となる力（基礎的なリテラシーやジェネリックスキル）として、日本語以外の外国語を用いて研究する能力、コンピューターを用いた基本的な情報コミュニケーションスキル等を習得している。 2. (思考・判断・表現) 物事を批判的に考え、評価し、それを自身の言葉で他者に伝えるのに必要な論理的な思考ができる。その際、グローバルな視野、歴史的な視点、多元的な視点で考え、それらを的確に表現する力を備えている。 3. (関心・態度・意欲) 様々な経済問題に強い関心を持ち、その探求に真摯に取り組むことができる。これに必要な品性や品格、豊かな情操と道徳心、多文化共生を実現しようとする姿勢を有している。加えて、修了後は大学院で取得した知識や技能を役立てられる職業に就くことを望んでいる。	変	有( )	
		更	無(○)
【博士課程後期課程】 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー) 経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. (知識・理解・技能) 経済学修士レベルの経済学の知識と、未開拓の領域や新しい状況に的確に対応していくのに必要な高度なリテラシーやジェネリックスキルとして、日本語以外の外国語を用いて研究する能力、コンピューターを用いた数的処理能力等を習得している。 2. (思考・判断・表現) 経済学に関連する諸問題について、グローバルな視野、歴史的な視点、多元的な視点から批判的に考え、自ら課題を設定し、それを論理的に評価・分析し、研究成果を文章またはそれ以外の方法によって表現できる。 3. (関心・態度・意欲) 様々な経済問題に強い関心を持ち、その探求に真摯に取り組むことができる。これに必要な品性や品格、豊かな情操と道徳心、多文化共生を実現しようとする姿勢を有している。加えて、修了後は大学院で取得した知識や技能を役立てるとともに、後進を育成する職業に就くことを望んでいる。			
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		

評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報
評価の視点3※	専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。	
<<回答>> 面接試験時に質問シートを用意し、面接官によって質問内容にばらつきがないようにしている。	<<資料名>> 36-C5-1：入学試験面接評価チェックシート(経済学研究科)
★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）	
<<回答>> オンラインによる入学者選抜は実施していない。	
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応）根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程
★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）	
<<回答>> オンラインによる入学者選抜は実施していない。	
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）	
<<回答>> ホームページから希望する研究指導教員を探しにくいと、出願をしなくなってしまう可能性がある。	
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。
評価の視点1※ 【基礎要件●】	専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16
評価の視点2※ 【基礎要件●】	専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16
評価の視点3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。	
<<回答>> ・2022年度のFD研究会では、「経済学研究科の収容定員充足率改善にむけて」をテーマとし、近年の経済学研究科の受験者数と合格者数の動向と特徴を共有した上で、入学者増のための案を出	<<資料名>> 36-C5-2:2022年度FD活動報告書、第10回経済学研究科委

し合った。 ・入試内容の抜本的な見直しをはかるために、入試方法等検討委員会を立ち上げて検討している。 ・経済学部3・4年生向けに、12月の大学院進学相談会の案内を送付した。		員会議事録（開催日：2023年3月1日）、大学院進学相談会案内
点検・評価項目(4)	5-4学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52会議録(または準ずるメール記録)：(開催日)2023年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	
★項目(4)5-4改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
≪回答≫ ・FD研究会 ・入試方法等検討委員会の立ち上げ ・大学院進学相談会の案内送付	≪資料名≫ 36-C5-3:2022年度FD活動報告書、第10回経済学研究科委員会議事録（開催日：2023年3月1日）、大学院進学相談会案内	

II現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	在学生から入試等に関する意見を提出いただき、研究科委員会で議論するとともに、入試方法等検討委員会を立ち上げた。
-------	---

III今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	入試方法等検討委員会での検討結果は、早くて2025年度入試から反映させる予定。 FD研究会で中間報告していただき、進捗状況をその都度確認する。
--------	--

IV【改善計画(事業計画)】

カテゴリ	計画番号	B票№ or 開始年度	改善計画(アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	2	2022-5III-1(5-3)	入学者数の確保	定員に近い入学者数の確保	収容定員充足率	A(100%)：定員に近い入学者 B(80%)：定員以上の合格者数 C(50%)：定員以上の受験者数 D(20%)：大学院説明会への参加者確保	2022 未結果：C 2023：D 2024：C 2025：C 2026：B 2027：B 2028：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見> 学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性が、webサイト等の根拠資料から明確である。 求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法についても、webサイトによって明確である。学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していること、専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施していることについても、webサイトその他の根拠資料から、確認することができる。オンラインによる選抜は実
--

施されていないが、公平な入学者選抜を実施するための取り組みとして、面接試験時に質問シートを用意し、面接官によって質問内容にばらつきがないようにしていることは評価できる。

博士課程前期課程における入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.36だが、収容定員に対する在籍学生数比率は0.50です。博士課程後期課程は、入学者数比率（5年平均）は0.00、収容定員に対する在籍学生数比率も0.00と相変わらず苦戦が続いている。これに対しては、大学院説明会の案内を、DBポータルを通じて学部生に配信していること、経済学研究科委員会で学生の受け入れ状況を報告し、課題を共有していることは評価できる。学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価する作業も行われていることが根拠資料から確認できた。改善・向上に向けた取り組みとして、研究生に対し手厚い教育を行ったことも評価できる。

**2023年度<所見>**

学生の受け入れ方針は、博士前期課程と後期課程のそれぞれにおいて、学力の3要素それぞれに紐づけた形で明示され、学位授与方針、教育課程の編成方針ともそれぞれ整合しており、各方針との一貫性が図られている。これらの方針はすべて研究科のホームページなどで公表され、各方針との関連性も確認することができる。また、入学者選抜の制度化に関しては、「入学センター規程」及び「大東文化大学入学者選抜試験規程」に基づく制度と体制により「大学院入学試験要項」が定められ、公正な入学者選抜を実施していると判断できる。これらにより、学生の受け入れに関する方針の設定と公表、及びそれに基づく入学者選抜の制度や運営は、適切かつ公正に実施していると評価できる。

一方、2023年度の博士課程前期課程の入学志願者数は6、入学定員に対する5年平均比率は0.40、収容定員充足率は0.40、博士課程後期課程の志願者数は0、入学定員に対する5年平均比率は0.00、収容定員充足率は0.00となっている。直近2023年度の収容定員充足率も0.40であり、博士課程後期課程に至っては、直近5年間の充足率はすべて0.00となっている。いずれの数値も適正値を下回っており、改善に向けた取り組みが求められるところである。

DBポータルの活用や研究生への手厚い指導に加え、「経済学研究科の収容定員充足率改善にむけて」をテーマとしたFD研究会の実施や入試方法等検討委員会による検討など、様々な改善努力を試みている様子がうかがえるので、定員充足率の向上につながることを期待したい。

**◆評価の基準について**

**※学部、研究科等評価基準**

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

**基準5 学生の受け入れ**

**【大学基準】**

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。